

11月の子育て支援室コラム

ページ番号：609873 2023年11月1日

よいことと悪いことはどうやって教える？

お子さんが大きくなるにつれて、親も「しつけ」についての意識が強くなり、特によいことと悪いことを教える時に、子どもを叱ってしまう場面が増えてくるかもしれません。何度も言葉で注意してもダメだったので、つい手が出てしまって...ということもあるのではないのでしょうか？叩くことはよくないとわかっていても、「しつけ」は必要だから...とご自分を納得させている場合もあると思います。



「しつけ」とは、できないことを叱るのではなく、子どもが社会で生きていくうえで必要な「自分自身で判断して行動する力」を育てることです。「〇〇したらダメ」ではなく、「〇〇しようね」と教えることが大切です。

では、具体的にどのようにすればよいのでしょうか？キーワードは「教える」です。



例えば、お子さんがおもちゃの取り合いで、友達をたたいてしまったら、「たたいちゃダメ！」で終わるのではなく、どうしたらよかったのかを教えるあげることです。「たたいたら痛いよね。たたかないで『貸して』って言おうね。」と、具体的な方法を付け加えてみてください。「〇〇してみようか」「〇〇するといいよ」など言葉にすると、子どももやってみようと思えるのではないのでしょうか。

危険なことについても、「だめ！」「やめなさい！」と注意するだけでなく、なぜだめなのか、どのように危険なのかを説明することで、子どもははじめてその理由を学ぶことができるのです。

「教える」ことはすぐに効果があらわれるものではありませんが、何度も繰り返すうちにしっかりと子どもの中に育まれ、根づいていきます。ぜひ、時間をかけてじっくり子どもさんに関わってみてください。



 SNSリンクは別ウィンドウで開きます



このページに対してご意見をお聞かせください [入力欄を開く](#)

このページの作成者・問合せ先

大阪市天王寺区役所 保健福祉課福祉サービスグループ

〒543-8501 大阪市天王寺区真法院町20番33号（天王寺区役所2階）

電話：[06-6774-9857](tel:06-6774-9857)

ファックス：06-6772-4906

[メール送信フォーム](#)

Copyright (C) City of Osaka All rights reserved.